

“十五”国家级规划教材

新大学日语

阅读与写作

总主编 陈俊森
主 编 赵 刚

2



115

H36-42

C45-A

“十五”国家级规划教材

新大学日语

阅读与写作

总主编 陈俊森

主 编 赵 刚

编 者 赵蔚青

小出涌三

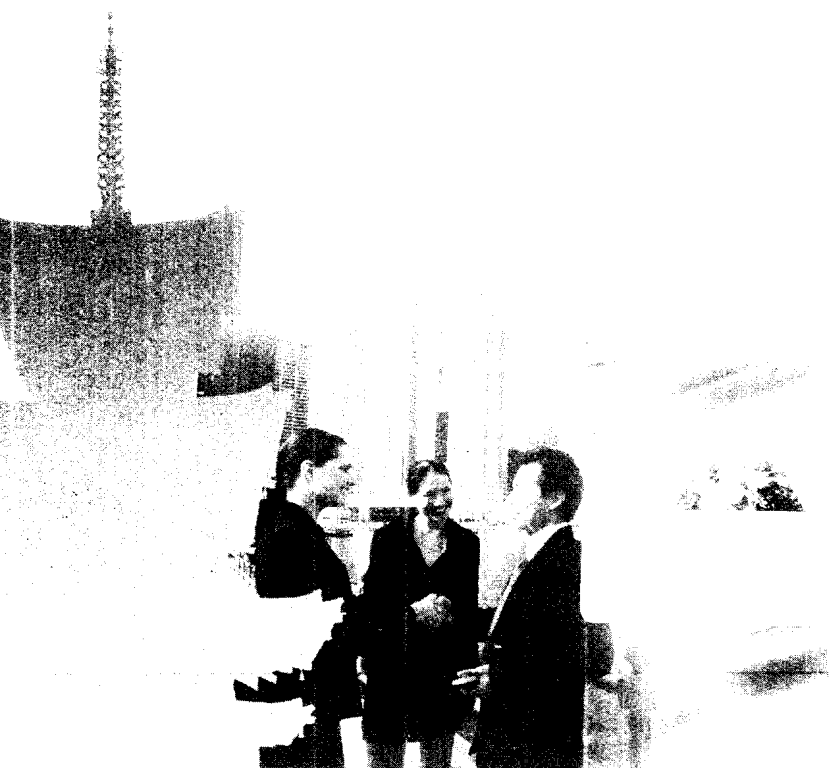
范小川

谭艺颖

张文丽

矢满田智康

2



高等教育出版社

图书在版编目(CIP)数据

新大学日语阅读与写作. 2/ 陈俊森总主编. —北京:
高等教育出版社, 2002
ISBN 7-04-011062-8

I. 新... II. 陈... III. ①日语 - 阅读教学 - 高等
学校 - 教材②日语 - 写作 - 高等学校 - 教材 IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2002) 第 030379 号

策划编辑 祝大鸣 责任编辑 陈 薇 祝大鸣 封面设计 王凌波
版式设计 张 彤 插图选配 陈 薇 责任校对 陈 薇 祝大鸣 责任印制 宋克学

新大学日语阅读与写作 2
总主编 陈俊森 主 编 赵 刚

出版发行	高等教育出版社	购书热线	010-64054588
社 址	北京市东城区沙滩后街 55 号	免费咨询	800-810-0598
邮政编码	100009	网 址	http://www.hep.edu.cn
传 真	010-64014048		http://www.hep.com.cn
经 销	新华书店北京发行所		
印 刷	中国科学院印刷厂		
开 本	850×1168 1/16	版 次	2002 年 6 月第 1 版
印 张	14.75	印 次	2002 年 6 月第 1 次印刷
字 数	380 000	定 价	23.00 元

本书如有缺页、倒页、脱页等质量问题, 请到所购图书销售部门联系调换。

版权所有 侵权必究

《新大学日语》系列教材编写委员会

陈俊森 顾明耀 祝大鸣 翟东娜 赵刚
陈百海 吴侃 侯仁锋 徐曙 陈薇

顾问

北原保雄 (日本筑波大学 校长)

顾明耀 (西安交通大学、日本广岛女子大学 教授)

西村よしみ (日本筑波大学 教授)

砂川有里子 (日本筑波大学 副教授)

山田泉 (日本大阪大学 教授)

主审

田忠魁 (黑龙江大学 教授)

总主编 陈俊森 (华中科技大学 教授)

总策划 祝大鸣 (高等教育出版社外语分社 副社长)

前言

一、编写背景

《大学日语教学大纲》1989年出版后对我国的大学日语教育起到了积极的指导作用和推动作用,至今已10余年。高等学校大学外语教学指导委员会日语组在总结了10余年来执行该大纲的经验之后,对其词汇表作了全面的修订,同时对正文和附表中的个别叙述也作了适当的调整。修订后的《大学日语教学大纲》(第二版)已于2000年4月经教育部批准颁发,并开始执行。

按照原《大学日语教学大纲》编写的《大学日语》系列教材(顾明耀、徐祖琼主编),在贯彻执行《大学日语教学大纲》,提高大学日语教学水平,推动我国大学日语教育事业方面发挥了重大作用,并受到全国广大日语教师和同学的普遍欢迎。随着《大学日语教学大纲》(第二版)的颁布,中国的大学日语教学改革也迈上了一个新的台阶。新的世纪呼唤着新的教材,教学改革也要求有新的教材与之配合。为此高等学校大学外语教学指导委员会日语组决定,组织全国重点大学的专家教授和具有广泛代表性的院校的优秀教师,编写新的大学日语教材。《新大学日语》系列教材就是在这种形势下诞生的。

本系列教材在编写设计之前,广泛、认真地听取了全国诸多院校师生的意见,尤其是长期使用《大学日语》教材教师的意见,并于2000年全国大学日语教学研讨会上,在宣传贯彻新大纲的同时,组织各地代表对新教材的编写进行了认真的研讨。概括起来,与会教师对新教材提出了以下希望和建议:在培养日语交际能力方面要有所创新;在难度和分量上要有所控制,不宜超过中级程度;素材要有时代感、趣味性、实用性;考虑到当前外语教学课时减少的现状,阅读量可适当减少;在教材的构成上,读写与听说最好分开成册,听说内容应有所增加;教材应与大学日语四级考试密切配合,同时照顾其他各类日语考试;单词的释义使用日语,以培养学生用日语思考的能力;在版式设计、图片使用、印刷、用纸等方面,要上档次,有美感等等。对这些好的建议,我们在编写这套教材时都尽力作了考虑。

二、编写原则

1. 充分体现《大学日语教学大纲》(第二版)的精神和要求,既强调打好基础,又重视语言运用能力的培养;既考虑教材的实用性,也充分考虑到素质教育的需要;
2. 在充分吸收《大学日语》教材好的编写经验的基础上,采纳国内外新的外语教学理论,力求做到内容一新、结构一新、设计一新;
3. 语言知识的学习重点放在词汇与句型上,语言运用能力的培养以大纲中的“功能意念表”和“语言技能表”为主;
4. 选择、编写纯正、地道的日语文章、例句,同时注意文字优美、风格多样;
5. 既注重日本的社会、文化背景,也注重中国的社会、文化背景,同时考虑国际文化的大视野;

6. 在注意与大学日语四级考试关联密切的同时, 还注意与其他各类日语考试的关联;

7. 为教师和学习者着想, 在编写教材的同时, 编写出简明、实用的教学参考书。并注意使本教材既作为大学日语的主干教材, 也能兼顾其他学习者的学习需求。

三、教材构成

本套教材共 10 册, 其构成如下:

新大学日语 阅读与写作 1~4;

新大学日语 阅读与写作教学参考书 1(1、2 册合订本)、2(3、4 册合订本);

新大学日语 听力与会话 1、2;

新大学日语 听力与会话教学参考书 1、2。

《阅读与写作》每册由 10 课组成, 教学时间为 40~44 学时。每课由课文、生词、注释、词语用法、表达与句型、练习、阅读 7 部分构成。课文的题材广泛, 体裁多样, 既有反映时代脉搏的文章, 也有传统文化的佳作; 既有年轻人感兴趣的话题, 也有思想内涵丰富的作品。每课的阅读部分配有两篇短文, 内容大多与课文有所关联。每册教材安排了 3 个附录: 附录 1 为两套自测题, 难度与本册相当, 题型与大学日语四级考试有相当的关联性。附录 2 为总词汇表、词语用法和表达与句型索引。附录 3 为两首日文歌曲。

《阅读与写作教学参考书》对应于各册教材, 每册主要内容有: 教学重点与学时分配、课文内容提要、背景知识、“词语用法”例句翻译与注释、“表达与句型”例句翻译与注释、语法学习、近义词辨析、近义表达方式、篇章法指导、写作指导、练习答案、课文及阅读材料译文。

《听力与会话》每册由 15 课组成, 教学时间为两学期共 40~44 学时。每课分为 4 个部分。Part1 有听音跟读和听简短会话, 这部分以训练大纲规定的听说技能为主。Part2 安排一篇 10~15 句左右的会话, 会话内容均根据《阅读与写作》相应课的课文或阅读文编写而成, 通过内容、词汇、句型的关联, 提高口语表达的熟练程度。Part3 分为两个部分: 第一部分是 10 个较短的会话, 每段会话为一道题, 要求听会话回答问题或复述内容; 第二部分是一段较长的会话, 配有 3~4 道题。这部分除了训练听说技能之外, 更着力于大纲所要求的交际能力的培养, 因而对大纲规定的功能、意念项目作了全面的安排。Part4 是一篇几百字的会话, 要求听录音填空或做笔记, 写出大意后, 口头讲述大意, Part 4 是听说的综合训练。每册教材后附有两套自测题和总词汇表。难度与本册相当, 题型与大学日语四级考试有相当的关联性。

《听力与会话教学参考书》也分别对应于各册教材, 每册的主要内容有: 听力指导、会话指导、听力材料、语法与注释、答案等。

四、致 谢

为了保证本套教材的编写质量, 我们特聘请原大学外语教学指导委员会副主任委员、西安交通大学教授兼广岛女子大学教授顾明耀作为中方顾问, 聘请日本筑波大学校长、著名语言学家北原保雄教授以及筑波大学西村よしみ教授、砂川有里子副教授、大阪大学山田泉教授为日方顾问。聘请原大学

外语教学指导委员会委员、日语组副组长、黑龙江大学田忠魁教授为主审人。顾明耀教授在百忙之中对设计思想、编写大纲以及编写过程中的细节问题都给予了细致的指导和无私的帮助；北原保雄教授亲自为教材撰写课文，使教材生辉；西村よしみ教授、砂川有里子副教授、山田泉教授对教材、教参中的日文部分仔细审阅，提出了宝贵的修改意见，同时对教材编写的宏观问题也提出了不少建设性的意见。田忠魁教授在对各册教材进行总体把关和审查的同时还对许多细节提出了积极的建议。各位顾问和主审人的辛勤工作在这套教材中结下了丰硕的成果，在此对他们为我国大学日语教育所做的贡献表示衷心的感谢。

本套教材在设计和编写过程中，得到许多高等院校教师和领导的帮助和指导，许多教师为教材提出了很好的意见和建议。初稿完成后，曾多次征求有关院校教师的意见，并得到了他们的帮助和支持，谨表示衷心的感谢。

在教材编写过程中，我们与每篇文章的作者和出版社都进行了联系。对那些慷慨授予我们版权使用权的作者和出版社，谨表示衷心的感谢。

日本国际交流基金会对本教材的编写、出版给予了大力的支持与帮助，并提供了“日本语教材制作助成”项目的资助，谨表示衷心的感谢。日本国际文化フォーラム在著作权等方面予以很大的帮助和支持。

日语教材的编写是一项系统工程，是一项很重要的科研活动，个中艰辛只有编写过教材的老师才能有所体会。虽然我们竭尽全力，希望编出一套令老师和学生都满意的好教材，但是还存在一些不尽如人意的地方，希望使用本教材的老师 and 同学提出批评意见，以便我们不断修订完善。

《新大学日语》系列教材编写委员会

2002年3月

本 册 使 用 说 明

本册教材是《新大学日语阅读与写作》的第二册，适用于大学日语的第二级教学。

一、本册的结构及使用说明

本册教材由正课单元、模拟试题和附录等几部分构成。

1. 正课单元

正课共 10 课，各课题材、体裁多样。

2. 模拟试题

模拟试题有两套，题型同大学日语四级考试，内容包括文字和词汇、语法构句、阅读理解三部分，难度与本册内容相同。

3. 附录

附录包括词汇索引、词语用法索引、表达与句型索引。

二、各课的内容及使用说明

1. 重点提示

提示本课的学习重点，内容包括两个关于课文主旨或大意理解问题的设问。

2. 课文

课文是本课的主题内容，是本课的学习重点，通过课文的讲授，丰富学生的语言知识，提高学生的阅读理解能力。

3. 单词

单词是每课新出现的词语，按照课文、词语用法、表达方式与句型及练习 4 部分的顺序分开排列。

单词的释义限于各课中的词义和一般常用词义。单词的声调、词性及释义依据《大学日语教学大纲》(第二版)的“词汇表”。

按照《大学日语教学大纲》(第二版)的“词汇表”对单词中的四级词进行了标注，词条前标有 * 号者为四级词，词条前无标记符号者为级外词。

单词的词性及略语如下：

[名]—名词	[代]—代词	[数]—数词
[他五]—五段他动词	[自五]—五段自动词	
[他下一]—下一段他动词	[他上一]—上一段他动词	
[自下一]—下一段自动词	[自上一]—上一段自动词	
[他サ]—サ变他动词	[自サ]—サ变自动词	[补动]—补助动词

[形]—形容词	[形动]—形容动词	
[副]—副词	[连体]—连体词	
[接]—接续词	[感]—感叹词	
[前缀]—前缀	[后缀]—后缀	[词组]—词组

4. 注释

对课文中新出现的语言点和专有名词加以注释。

5. 词语用法

主要包括课文中难以掌握的接续词、副词、重要名词、动词以及惯用句。各课分别有 5~10 个词语，每个词语有 3~5 个用例。

6. 表达方式与句型

每课列举课文中新出现的重要的表达方式与句型 5 个，每个表达方式与句型有 3~5 个用例，并解释其接续特点、使用条件和表示的意义。

7. 练习

练习紧紧围绕打好语言基础、提高运用能力这一中心任务展开。既可作为课堂教学的补充，又可作为课外作业。

课文内容的问答题围绕对课文的阅读理解设问，以便展开课堂讨论。语言点练习和翻译练习围绕词语用法、表达方式与句型设问。

作文练习的话题与课文主题相对统一，并对文章结构、关联词语、关联句型进行了提示。

8. 阅读

阅读有两篇短文。

阅读 1 为书面回答问题。题型有选择题、填空题、记述题等。设问主要围绕明确指代内容、理解句间关系、捕捉主要论点、归纳中心思想等。阅读 1 可安排为课后作业。

阅读 2 为口头回答问题。设问注重内容的理解和展开，便于课堂讨论。

9. 附加材料

每课设立课外学习专栏，内容包括与课文话题相关的短文和谚语，以便扩大学生的知识面，加深对日本社会和文化的理解。

三、教学安排

本册的教学时间为 40~44 学时，其中每课教学时间为 4 学时。

课文、单词、词语用法、表达方式和句型为教学的重点内容。练习、阅读、附加材料是教学的辅助内容，可根据不同情况将部分教学辅助内容安排在课外学习和练习。

目 录



第1課

- 本 文 電子メディアは道具である 1
- 言葉の使い方 4
- 表現と文型 6
- 練習問題 8
- チャレンジ1 インターネット 13
- チャレンジ2 インターネットで暮らしはどう変わるか 15
- コラム 情報・電子系科学技術開発 16
- 今週の一句 鉄は熱い内に打て 16



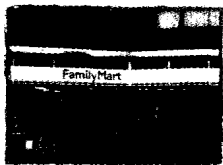
第2課

- 本 文 分相応と分不相応 17
- 言葉の使い方 20
- 表現と文型 23
- 練習問題 25
- チャレンジ1 「若者文化」の落とし穴 29
- チャレンジ2 「自己実現」を長い目で考えよう 31
- コラム 日本の大学 32
- 今週の一句 少年よ大志を抱け 32



第3課

- 本 文 ことわざの誤解 33
- 言葉の使い方 37
- 表現と文型 39
- 練習問題 41
- チャレンジ1 ら抜き言葉 46
- チャレンジ2 カタカナの魅力 47
- コラム 若者のキーワード 49
- 今週の一句 言葉は心の使い 49



第4課

- 本文 コンビニ考 50
言葉の使い方 54
表現と文型 56
練習問題 59
チャレンジ1 黄金週間 63
チャレンジ2 在宅勤務 65
コラム コンビニエンス・ストア 66
今週の一句 弘法筆を選ばず 66



第5課

- 本文 人形 67
言葉の使い方 71
表現と文型 73
練習問題 75
チャレンジ1 富士 80
チャレンジ2 現代青春論 81
コラム 日本のノーベル賞受賞者 82
今週の一句 焼け野の雉夜の鶴 83



第6課

- 本文 世界を歩く 84
言葉の使い方 88
表現と文型 90
練習問題 94
チャレンジ1 ケータイの社会言語学 98
チャレンジ2 iモードとWAP 100
コラム ケータイによる電子メール 101
今週の一句 水は舟を載せ、亦舟を覆す 101



第7課

- 本 文 水と緑と土 102
- 言葉の使い方 105
- 表現と文型 108
- 練習問題 111
- チャレンジ1 日本の経済発展と環境問題 115
- チャレンジ2 砂塵嵐と戦う北京 117
- コラム 環境問題 118
- 今週の一句 桜伐る馬鹿、梅伐らぬ馬鹿 118



第8課

- 本 文 晩秋の中国で 119
- 言葉の使い方 123
- 表現と文型 126
- 練習問題 128
- チャレンジ1 国を担う若者 133
- チャレンジ2 「楓橋夜泊」の寒山寺 135
- コラム 中国と日本の歴史的・文化的関係 136
- 今週の一句 旅は道連れ世は情け 136



第9課

- 本 文 21世紀への新しい道 137
- 言葉の使い方 141
- 表現と文型 143
- 練習問題 146
- チャレンジ1 創造的人間 151
- チャレンジ2 毛利さん宇宙へ 152
- コラム 日本の宇宙・航空技術 154
- 今週の一句 知識は力なり 154



第 10 課

本 文 日本的コミュニケーションと人間関係 155

言葉の使い方 160

表現と文型 162

練習問題 165

チャレンジ1 甘えの構造 170

チャレンジ2 日本人の「二重人格」 172

コラム 日本人の国民性 173

今週の一句 和を以て貴しと為す 173

附 录 1

模擬テスト1 174

模擬テスト2 184

附 录 2

単語索引 194

ことばの使い方索引 213

表現と文型索引 215

附 录 3

日本の歌 216

1. いつでも夢に花束を

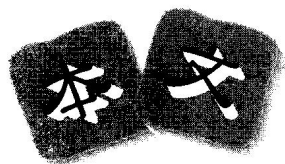
2. 乾 杯

第1課

電子メディアは道具である

読みながら

1. 筆者が「電子メディアは道具である」と言っている意味を深く考えてみましょう。
2. 「道具」「能率」「必要」という三つの言葉の意味をよく吟味して正しく捉えましょう。



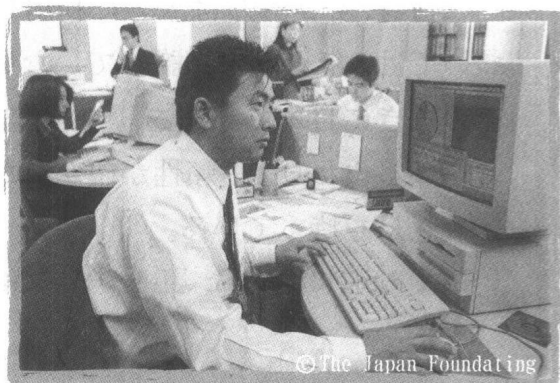
かばしま ただお
樺島 忠夫

インターネットだとか、Eメールだとかの言葉を、新聞や雑誌で毎日のように目にする。テレビを見ていても、番組の終わりあたりで、「WWW なんとか」を見ろ、などというメッセージが出る。いわゆる電子メディアの利用である。これに対して、人は様々な反応を見せる。

- 5 ある人は、自分はそんなものには関係がないと割り切って見向きもしない。

ある人は、それを使っていない自分を時代遅れのように思って、なんとか使ってみたいが、自分には使えそうにないとあきらめ気分である。

- 10 ある人は、パソコンを買い込み、これらを使う練習をするが、利用するまでにはいわずに、せっかく購入した機械は眠ったままになる。



もちろん、これらとは違って、自分の必要に応じてインターネットやEメールを駆使するようになる人もいる。

電子メディアに近づくことをしないでいるか、それを使いこなすようになるかを決める要素には様々なものがあるだろうが、私は、その一番大きな要素は、
5 「利用する必要が発見できるかどうか」だろうと思う。電子メディアは、はさみやペンチと同じく道具だからである。

私は電子メディアを、必要に応じて道具として便利に利用してきた。これによって得た利益は絶大である。しかし、私の周囲を見渡すと、この「必要」を発見しそこねている人が多いようである。

10 インターネット、Eメールなどの電子メディアについて、自分はそんなものには関係がないと割り切って見向きもしない人、それを使っていない自分を時代遅れのように思って、何とか使ってみたいが、自分には使えそうにないとあきらめ気分である人、パソコンを買い込み、これらを使う練習をしても利用するまでにはいわずに、せっかくの機械を眠ったままにしている人は。

15 ◎ その人にとっては仕事の能率化が必要であるのに、電子メディアという道具を役立てる必要や方法を発見することができないでいる人。

◎ 能率化することが必要な仕事をまったく持っていない人。
のどちらかであるように思う。

電子メディアという道具を役立てる必要や方法を発見することができないで
20 いる人には、電子メディアはこういう必要にこたえてくれる便利なものだということを認識することが必要であろう。しかし、電子メディアの使用に習熟した人に、「どんな必要に対して、どういうふうに役立つのか」ということを親切に解説してもらわなければ、自分で発見的に認識することは困難になっている。

私自身、Eメールは大いに利用しているが、インターネットを役立てる効用について、ほとんど認識していない。毎年、カナダで暮らす日々を持っているが、
25 そのときに日本の新聞を読む程度である。むしろ、インターネットであちこち情報を探しまわり、信頼性が確かでない情報を興味本位で得るのは時間の無駄だという感じを持っている。

(『国文学』に掲載された「電子メディアは道具である」の一節 2月臨時増刊号 2000 学燈社)

- | | | |
|----------------------|--------|-------------------------------|
| 1. *電子 (でんし) ① | [名] | 电子 |
| 2. メディア ① | [名] | 媒体 |
| 3. *E メール (イーメール) ③ | [名] | 电子邮件 |
| 4. *いわゆる ③ | [连体] | 所谓 |
| 5. メッセージ ① | [名] | 口信, 留言, 通知; 声明, 宣言, 致辞 |
| 6. 割り切る (わりきる) ③ | [他五] | 断然下结论 |
| 7. 見向き (みむき) ② | [名] | 关注, 理睬; 转头看, 回顾 |
| 8. *これら ② | [代] | 这些 |
| 9. *至る (いたる) ② | [自五] | 至, 到(某地方); 达, 及, 到达(某时间、状态等) |
| 10. 購入 (こうにゅう) ① | [名・他サ] | 买入, 购进, 采购 |
| 11. 駆使 (くし) ① | [名・他サ] | 运用; 驱使 |
| 12. *近づく (ちかづく) ③ | [自五] | 靠近, 迫近, 临近; 接近, 亲近 |
| 13. 使いこなす (つかいこなす) ⑤ | [他五] | 运用自如, 熟练掌握 |
| 14. 要素 (ようそ) ① | [名] | 要素 |
| 15. *はさみ ③ | [名] | 剪刀, 剪子 |
| 16. *ペンチ ① | [名] | 钳子 |
| 17. 同じく (おなじく) ② | [副] | 又, 同 |
| 18. 絶大 (ぜつだい) ① | [形动] | 巨大, 极大 |
| 19. 見渡す (みわたす) ③ | [他五] | 望, 远望, 张望 |
| 20. ~損ねる (~そこねる) | [后缀] | 未能..., 没成功...; 漏..., 错失... |
| 21. *能率 (のうりつ) ① | [名] | 效率 |
| 22. ~化 (~か) | [后缀] | ...化 |
| 23. 役立てる (やくだてる) ④ | [他下一] | 使...有用, (供)使用 |
| 24. *こういう ① | [连体] | 这种, 这样的 |
| 25. *使用(しよう) ① | [名・他サ] | 使用, 利用, 雇用 |
| 26. 習熟(しゅうじゅく) ① | [名・自サ] | 熟习, 熟练 |
| 27. *どういう ① | [连体] | 什么样的, 怎么样的 |
| 28. *解説 (かいせつ) ① | [名・他サ] | 讲解, (深入浅出地)解释、说明 |
| 29. *~的 (~てき) | [后缀] | 关于...的; 带有...性质; ...样的, ...性的 |
| 30. *大いに (おおいに) ① | [副] | 大大地, 很, 颇, 非常 |

31. 効用 (こうよう) ①	[名]	用途, 用处
32. 日々 (ひび) ①	[名]	天天, 每天
33. *程度 (ていど) ①	[名]	程度
34. *むしろ ①	[副]	宁可, 莫如, 与其… 倒不如…
35. *情報 (じょうほう) ①	[名]	情报, 信息
36. *信頼 (しんらい) ①	[名・他サ]	信赖
37. 本位 (ほんい) ①	[名]	本位, 中心

WWW: (World Wide Web的省略语)万维网。

言葉の使い方

1. いわゆる

- ・彼らのいわゆる成功は意味がない。
- ・自分の両親、兄や姉のような、家の中のいわゆる目上の人に、「あなた」のような代名詞を使う人はまずいないだろう。
- ・A: うちの大学、最近またアメリカの大学と姉妹校になったんです。これで8校目ですよ。
B: ああ、いわゆる「大学の国際化」というやつですね。そういうのが国際化だと思っている人が、まだたくさんいるんですね。

2. 見せる

- ・2時間踊った彼は、少々疲れは見せたものの楽しそうだった。
- ・人々は私たちの訴えに対して予想以上の関心を見せてくれた。
- ・久しぶりだね、たまには顔を見せてくれよ。
- ・山が間近であるため、幸いに月はまだ姿を見せていなかった。
- ・^{ふみこ}芙美子さんはニッコリ笑顔を見せると、「早く母に合格を知らせなくちゃ」と駆け出した。